

「鼠径ヘルニア」



副院長 外科部長

石尾 哲也

山香病院だより vol.89

鼠径ヘルニアの手術には様々な方法がありますが、現在では9割以上の手術が、緊張のかけらないメッシュ(網目状・シート状の人二物)を使用する方法で行われています。メッシュを使用する手術方法では、鼠径部切開法や腹腔鏡下手術などの方法があります。

鼠径ヘルニアとは、一般に「脱腸」と呼ばれる良性の病気です。足の付け根の部分で鼠径部と言い、成人の鼠径ヘルニアは、その鼠径部の組織が脆弱になり、お腹の中にある腹膜が袋状に飛び出してくることにより起こります。

鼠径ヘルニアの症状には、鼠径部の不快感や痛み、立った時・お腹に力を入れた時にある鼠径部の柔らかい膨隆などがあります。腸が飛び出て膨隆ができるため「脱腸」と呼ばれます。

通常、膨隆は指で抑ええるだけで引っこみますが、急に硬くなり、指で押さえても引っこまなくなることがあります。それは、ヘルニアの「嵌

頓」と言い、脱出した腸が締め付けられて血液が行かなくなるため、緊急の手術が必要になります。緊急手術になると腸を切除しないといけない場合もあります。

ヘルニアの「嵌頓」および緊急手術を避けるには、鼠径ヘルニアの治療が必要です。鼠径ヘルニアは物理的な体の変化であるため、自然に改善したり、お薬で改善することもありません。そのため、唯一の治療は手術になります。

治療せずそのままにしておけば、いつ「嵌頓」するかわかりません。きちんと鼠径ヘルニアを修復して快適な日常生活を送ることが重要です。

当院では、①術後疼痛が軽度で、②術後の慢性疼痛・感覚鈍麻が少ない。③血腫・創感染の術後合併症が少ない。など優れた点が多いため、腹腔鏡下手術を第一選択としております。特に両側の鼠径ヘルニアの場合は、片方だけのときと全く同じ創のみで手術ができます。(両側ヘルニアの場合、鼠径部切開法では2つの大きな創ができます。)

腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術は、からだに對する負担が非常に少ない手術で、術後は数日〜7日間で退院が可能です。鼠径ヘルニアの方には、ぜひ手術をお勧めします。

鼠径ヘルニアでお悩みの方は、お気軽に当院外科にご相談ください。